

# 年頭のごあいさつ

黒潮町長 松本敏郎



明けましておめでとうござい  
ます。

皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、足かけ4年にわたり、日常生活に厳しい規制を強いられた「新型コロナウイルス感染症」が、5月にはインフルエンザ並みの「5類感染症」に移行され、夏には「土曜夜市」や「シーサイドギャラリー」、「いごっそうアクアスロン大会」、秋には「土佐さがのもどりガツオ祭」や「黒潮町まるごと産業祭」などが通常開催され、4年ぶりに中学生をニュージランドへ派遣することもできました。

町に元気が戻りつつあることは、サッカー・野球・ゴルフなどのスポーツ合宿で黒潮町に宿泊した人数が、コロナ禍前を上

回り、過去最高になったことで  
もうかがえます。

また、おはなし玉手箱が「令和5年度子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞し、NPO 砂浜美術館が「第39回都市公園等コンクール国土交通省都市局長賞」を受賞されたことは、長年にわたり地域に根ざした活動が全国的に高く評価されたことであり嬉しい、ニュースでした。さらに、「第74回高新中学駅伝大会」で大方中学校が32年ぶりに優勝し、全国大会に出場したことは、年末にかけての大きな話題となったことです。

一方で、寂しかったのが、150年の伝統ある伊与喜小学校が令和4年度の卒業生1名を最後に休校となったことでした。日本の人口は、平成20年をピークに減少に転じました。その後、出生数は過去最低を更新し続け、将来の「国のカタチ」を憂える大きな問題となっています。そして、黒潮町では、その時代を先取りするように少子高齢化が進んでいます。

このほか、国際社会に目を向けると、2度目の冬を迎えたロシアによるウクライナへの軍事侵攻や新たに勃発したイスラエルとハマスの紛争に巻き込まれた子どもたちの痛々しい姿を、

毎日のように目にする年でもあり  
ました。とにかく1日も早く、  
このような戦争が終わることを  
願うばかりです。

さて、令和の時代も6年目を迎えました。混沌とした国際情勢のなか、時代は百年に一度といわれる大きな変革期にあります。世界各地で戦争や地域紛争が絶えないなか、地球規模での気候変動は人間にとって不都合な方向へ進んでいます。2022年、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は「地球温暖化の原因が人間活動の影響であることに、疑う余地がない」と結論付けました。ネイティブ・アメリカンには「地球は先祖から譲り受けたものではない。子孫から借りているものだ」という言い伝えがありますが、脱炭素の取組は、黒潮町にとっても他人ごとではありません。

本町では、昨年3月に「黒潮町地球温暖化実行計画（区域施策編）」を策定し、4月には環境省から「脱炭素先行地域」に選定されました。

これまでの経済は、温室効果ガスの排出を増加するほどに成長しましたが、これからの経済は、温室効果ガスの排出を削減するほどに成長する方向へ転換しつつあります。

また、デジタルを利用して人々の生活をより良いものに変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）は、少子高齢化、働き手不足、過疎化などのさまざまな課題を抱える本町にとって重要な取組となっています。新しい時代を見すえ、持続可能なまちづくりを進め、一層の住民サービスの向上をめざし取り組んでまいります。

コロナ禍を乗り越え開放感が満ちる新年、1月3日には成人式を華々しく開催いたします。今年の対象者は平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれの113名で、その内11名が海外研修生です。今年「辰年」、天高く昇る龍のごとく、この若い人たちの未来が切り拓かれていくことを願い祝福したいと思います。

結びにあたり、住民の皆様におかれましては寒さ厳しい折、くれぐれもご自愛いただき、「ふるさと黒潮町」発展のため、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

今年一年が皆様にとりまして平穏で幸せな年となりますことを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。